

「みどりのカーテン (ゴーヤ)」の育て方講習会

開催日：平成25年5月12日（日）

10:00～12:00

場所：別子銅山記念図書館 多目的ホール

講師：徳島大学准教授 田村 隆雄氏

講師紹介



徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部所属。
水文学専攻。平成19年度から徳島県上板町とタイアップし、ゴーヤによる「みどりのカーテン」の効能や問題点の検証を続けられ、各所で研究発表もされている。

東かがわ市在住



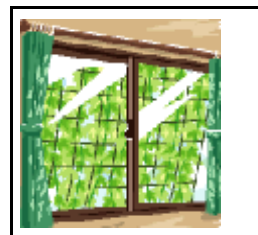
ゴーヤといえば「農作物」として利用されているものです。今日の講習では「実」を収穫するための管理ではなく、「葉」を茂らせることにより、みどりのカーテンをつくり蒸散作用を活発にさせるための管理についてお話したいと思います。

「葉」を茂らせるためには、肥料は窒素系のものを多く与え、水もしっかり与えます。そして水以上に大切なのが、追肥です。追肥の時期も重要となってきます。

みどりのカーテンに大きな期待をされている方もおいでるかもしれません。「エアコンを使用せずに快適な夏をすごせるのではないか？」「大幅に省エネができるのではないか？」などの過剰な期待をしないことです。人により「快適」は異なります。暑い時は、我慢せずにエアコンを使ってください。曇っている日は「みどりのカーテンがないほうがいいのか？」なんて思うこともあります。それでも、使用時間の短縮や冷房効率の向上で、いつもより省エネな夏を過ごすことができます。

あと、電気代は抑制できますが、水道代や肥料や手間はかかります。そして、ゴーヤが上手く育つと消費が追い付かず、処分に困ります。そういったことを踏まえて、皆さんに苗を育てていただければと思います。

「みどりのカーテン」を省エネだけでなく、他にいろいろな面も評価してもらい、夏の終わりに「良かったな。来年もやってみよう」と感想を持って貰えると幸いです。



講義風景



いよいよカーテン作り！まずは・・・
想像以上に水を消費します。灌水時には、難しいです。虫もやってきます。余ったゴーヤは空き地や河川に捨てないでください。生態系が変わってしまう恐れがあります。

土作り

水はけのよい土で、できるだけ大きなプランターで（路地植の場合は2年続けて栽培する場合は土の入れ替えが望ましいです）。

ネット張り

ネットがたるまないように、隙間から日が差し込まないように。そして、固定できない場合は支柱を利用してください。

肥料

窒素分の多い肥料が適しています。暖効性で、濃度の低いものにしてください。必ず用量を守ってください。

摘心

親ヅルが1メートル程伸びてきたら、先を切ってください。そうすることで、枝ヅルが良く伸び横に広がっていきます。

追肥・水やり

肥料はとても重要です。気前よくたっぷりあげてください。給水量は1畳あたりのゴーヤのカーテンには、1日で役5リットル必要です。昼間の水やりは避けてください。

虫・病害・風害

8月下旬になると蛾がやってくる場合があります。ほかには、べと病・うどんこ病など、低温多湿や日光不足により病気になる場合があります。風害対策は、ネットをしっかりと固定させることです。直立させるよりも斜めに設置することをお勧めします。



ゴーヤ以外の

みどりのカーテン

ウリ・朝顔・るこう草・ふうせんかずら等・・・いろいろあります。是非、試してみてください。

受付の様子



栽培モニターにお渡しした
苗・温度計・ネット・報告シート

